

## A-5: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 10:40-12:10 B101(1階)

### URAが生み出す価値とは

文部科学省の「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備」や「研究大学強化促進事業」で日本の研究機関にもURAの確保、活用が進んできた。また、このような補助事業を活用せずに自主財源で雇用されているURAも多く見られるようになってきた。

一方、どのような財源で雇用されていようとも、URA一人ひとりやURA組織の長には「URAが生み出す価値」について説明する責任がある。しかしながら、URAが生み出す価値は有形、無形共に多様であり、加えて、URAが提供する機能そのものも多様であり容易に説明できるものではない。さらには、URA自身も本当の価値に気づいていない場合も多いのではないかと考えられる。

ポスト研究大学強化促進事業の時代を見据えて、このタイミングでURAが生み出す価値についてえ方を共有、比較することは、その価値を明らかにする観点からも、また、URAの機能を更に価値の高いものに昇華させていくためにも重要である。

このような背景のもと、本セッションでは、URAの価値をその雇用側、被雇用側双方の観点から意見を交換し、さらにはセッションに参加いただける方々全員と意見を交える事により、URAの価値を再発見することとしたい。

本セッションは、筑波大学が主催するセッション「ポスト「研究大学強化促進事業」時代のURA組織運営」(9月4日13:50-15:20 A-6)と相補関係にある。すなわち、本セッションでは主にURA配置機関内の視点から、筑波大学のセッションでは主にURA配置機関外の視点からURAの価値を取り扱う。両セッションの参加を通じ更に理解を深めることができる。

なお、本セッションでの議論の概要について、大会終了後に講演録として公開する予定です。

### オーガナイザー



高野 誠:大阪大学 経営企画オフィス  
シニア・リサーチ・マネージャー

1986年日本電信電話株式会社(NTT)入社。同社研究所、研究企画部門等で電気通信システム及びその管理システムの研究・開発や組織マネジメントに従事。研究企画部門では研究成果の事業化企画を統括。2015年大阪大学特任教授/シニア・リサーチ・マネージャ。プレアワードを中心としたリサーチ・マネジメント業務全般に従事。博士(工学)

## 講演者

### 岩井 善郎:福井大学 産学官連携本部 特命教授(前 研究担当理事)



1978年より福井大学工学部機械工学科・講師、その後、助教授を経て、1991年工学部機械工学科教授。2000～2001年スウェーデン、連合王国文部省在外研究員。2012年同大学院工学研究科長・工学部長。2013年～2019年理事・副学長、研究、国際、産学・社会連携、地域貢献を担当。専門分野は機械工学のトライボロジー、機械材料学、表面工学。日本機械学会、日本トライボロジー学会等に所属。

### 杉原 伸宏:信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 学術研究支援本部長／学長補佐・教授



2000年 信州大学 医学研究科 助手。2004年 同 医学部知財活用センター 助手。2007年 同 産学官連携推進本部 講師。2011～2014年 同本部 RA室長。2011年 同本部 准教授。2013年～現在 学長補佐。2014～2016年 信州大学 産学官・社会連携推進機構 RAセンター長。2015年 同機構 教授。2016年～現在 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 学術研究支援本部長。国立大学が法人化した2004年から、3代の学長・理事の下で研究・産学連携支援に従事し、2011年からURA組織を束ねてきました。この登壇は万感の思いです。

### 小左古 学:広島大学 学術室 研究企画室 室長(併)高度専門職

広島県出身。宮島のある廿日市市在住。  
平成5年4月から平成20年10月までの15年間、文部科学省(旧文部省)の予算編成業務に主に従事。  
平成20年10月より広島大学財務・総務室経理グループのグループリーダー。  
平成23年4月より広島大学学術室研究企画室の室長。事務組織である研究支援(主にプレアワード)部署とURA組織を兼ねている組織の長。  
趣味はランニング。